

教室掲示  
お願いします

# SSH 通信

第7号  
平成30年11月26日発行  
編集：Ⅱ年5組

## SSH 課題研究中間発表会

11月15日(木)に本校にて課題研究中間発表会が行われました。午前中には2時間の授業公開、卒業生による講演会が行われました。午後には、AS科学探究Ⅰ(高2ASコース対象、学校設定科目)での研究成果についてポスター発表を行いました。

### SSH 課題研究中間発表会

- 2限 公開授業Ⅰ「GS社会と統計」
- 3限 公開授業Ⅱ「ASサイエンス・コミュニケーション」
- 4限 松田佳祐さん(SSコース卒業生)による講演
- 5～6限 課題研究中間発表会

講演会では、カブトムシのツノの研究についてのお話を聞きました。カブトムシのツノが形成される過程はとても興味深く、またそのシミュレーションの精度に驚きました。シミュレーションが好きでこの研究をすることになったと伺いましたが、好きなことを生かした研究を楽しんでいる様子がとても印象的でした。



ポスター発表には、1年生、広島大学の留学生、旧SSコースの先輩方が参加してくださいました。先輩方からは、ポスター発表の仕方から、研究のことまでたくさんのアドバイスをいただきました。また、留学生の方には英語で説明しなければならず、大変でしたが、授業のおかげもあり、ある程度落ち着いて説明できました。今回のポスター発表では課題研究に足りない点を見つけることができ、今後の研究に生かしていきたいと思いました。

## 生徒理科研究発表会

11月17日(土)に広島県立広島産業会館本館で行われた平成30年度広島県高等学校生徒理科研究発表会にASコースから7グループ(いずれも研究分野は理科)が参加しました。中間発表会に引き続き各グループで工夫をこらしながらポスター発表を行うことができました。

### 発表題目: 歩行による泥跳ねの防止法

中間発表会と土曜日の発表では、本実験の内容がしっかりと決まらないままの発表だったので、不安がありました。パソコンを用いて、今行っている足の動きのモデル化について実際に見せながら説明するなど、工夫した発表ができたように思います。今回、オーラル発表の選考からは外れましたが、2月のSSHの日では、今回の発表での反省を踏まえた上で、より深い内容について、工夫して発表できるようにしたいです。



### 発表題目: 水面を浮遊する油滴

私たちは「水面を浮遊する油滴」という研究で参加しました。校外の発表会には初めての参加で不安もありましたが、得るものがとても多かったように思います。他校の



生徒や先生方から答えに詰まる質問をたくさん受けたり、客観的な意見をいただいたりしたことは貴重な経験となりました。また、他校の研究も面白いものが多く、個人的にも懐かしい顔と出会えたりもして、とても楽しい時間を過ごせました。発表を通して得た意見等を今後につなげていきたいと思っています。

### 発表題目:靴底のゴムとスキールノイズ

私たちのグループは11月17日に行われたポスター発表に参加しました。附属高校だけでなく、他校の研究グループも多く参加していました。そのため普段は知ることのできない他校の研究についても深く知ることができ、とても良い機会になりました。このポスター発表会は来月にあるオーラル発表会に進むための一次予選でもありました。私たちの班はこの一次予選を突破して次の発表会に進むことができました。次の発表会でも良い結果が残せるように、今回の経験を生かし、課題研究に一生懸命取り組んでいきたいです。



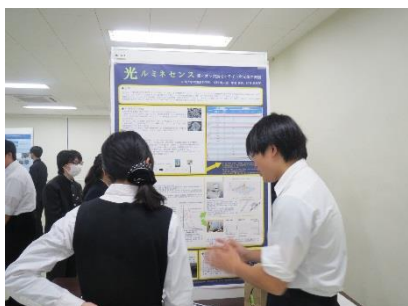
### 発表題目:不斉金属錯体を用いたアミノ酸の光学分割

私たちは、自分たちの研究の概要とその進捗について他校の生徒に向けてポスター発表を行いました。なじみが薄いテーマであるためか、あまり他校の人々に興味を持ってもらうことができず、主に先生方に向けての発表になってしまいましたが、数多くの鋭い質問をいただき、自分たちの不足している点について再認識することができました。また、他校の発表を聞き、その着眼点の多様さに驚くとともに、さまざまな質問をしてお互いに切磋琢磨することができました。



### 発表題目:光ルミネサンス

今回、さまざまな人と交流することで、今まで自分たちが気づけなかった視点がたくさん見つけられました。そして、他の研究発表を聞き、研究方法や発表方法など参考にしたい点もあります。また、いま自分たちが行っていることは「研究」というより「先行研究にあったことを実際にやってみたもの」とであると実感しました。そのため、今後、研究と呼べるようなものにしていくためにも、今までの実験を整理し、自分たちが何をしたいかを考えなおしたいと思います。



### 発表題目:ゼブラフィッシュを用いた依存症に関する基礎的研究

今回の研究発表会で、私たちは自身の成長を感じました。実験を計画・実施したり、ポスターを作成したりすることは大変な作業でしたが、今後に生かされることを多く学びました。また、練習を重ねたポスター発表では、聞き手が研究内容を理解できるよう話すことの難しさを実感しました。私たちは今後、これらのことや他校の生徒たちとの意見交換など通して学んだことを生かして、ゼブラフィッシュへの愛を深めつつ課題に取り組んでいこうと思います。



### 発表題目:コケを用いた水質浄化に関する基礎的研究

木曜日の中間発表に続いて行われた土曜日の産業会館での発表は有意義なものとなりました。もちろん、望ましいレベルの結果を出せたわけではないし、データは想定よりもいっくら前の段階のものにとどまってしまうました。スピーチ自体についても、章立てごとの繋がりがどうしても見えにくくなってしまいうなど、改善を要する点がいくつか発見できました。今回の結果を足掛かりとして、ますます実験・研究を深めていきたいと思っています。



「水面を浮遊する油滴」「靴底のゴムとスキールノイズ」を発表した2グループが優秀賞に選ばれ、12月15日(土)に広島県立広島産業会館で開催される研究発表会に出場することが決定しました。

(作成: II年5組AS委員)